

ルリハムシ

2012年5月17日。烏柵舞の森初回の植苗の日。集合場所の澄川駐車広場の植栽したカバの幼樹の葉を数匹のルリハムシが食べていました。帰宅後にハムシ類をいろいろ当たってみました。カバの葉を食べるルリハムシはみあたりません。ハンノキ類の葉を食べるとされています。映像と記憶から何処から見てもルリハムシとしか見えないのですが、シラカバの葉も食べるようです。近くにケヤマハンノキがあり、その葉にルリハムシがたかっていたのは知っていますが、ちよいとカバの葉を試食してみたのでしょうか。この株の下の方の葉に食痕がありそこにもハムシがいましたので食べているのは間違いありません。



昆虫たちは進化が早く、亜種的なルリハムシかもしれません。ご覧のとおり美しい青緑の金属光沢で大きさは7~8ミッと小さい昆虫です。ハムシの仲間はおしなべて美しい装いで目立つのです。保護色的ではないのです。自身も毒を持っていて「俺様を食べるとヤバイぞ」と小鳥たちに存在を報せているように思えます。分布は日本全国とされています。

植物たちは天敵達に対する抵抗策としてそれぞれ何らかの毒を作り出します。かねて不思議に思っていることですが、人間が植えた苗はしばしば昆虫やネズミ、ウサギ、シカなどの天敵達にやられる率が野生のそれよりも高いと感じるのです。天敵たちは毒素の強弱に敏感であらざるを得ないわけで、移植された苗はまだリハビリ中の病人のようなもので抵抗毒素を生成する力がついていなく、野生で勢いの良い樹木は抵抗毒素を十分に持っていると思わざるを得ないのです。烏柵舞の森はカバ類の天然更新がきわめて良好で、すでに人の身長を越える高さに伸びたカバ類が密集して百万本ぐらいは生えているように見えるのですが、ハムシは全く見当たりませんでした。作業としては17、18の2日で2,600本の苗を植えました。

施主のCGCグループの植樹祭の舞台づくりを今造園が行なっていて、築山を作り飾りつけが出来ていました。天候にも恵まれすっかり日焼けしました。烏柵舞には山菜類がほとんどありませんでしたが、周りの森で天然のシイタケを採取したのがせめてもの慰みでした。

